

様式D（介護テクノロジー等モニター調査事業 計画概要書）

令和 7 年 8 月 18 日

介護テクノロジー等モニター調査事業 計画概要書

1. 申請者（企業）の概要等

企業名	アイホン株式会社（協力会社：アクシスコミュニケーションズ株式会社）	
担当者所属	営業推進部	
担当者名	峰田 哲朗	
担当者連絡先	住所	〒460-0004 愛知県名古屋市中区新栄町一丁目1番 明治安田生命名古屋ビル10階
	電話	052-228-9971
	電子メールアドレス	tetsurou_mineda@aiphone.co.jp
主たる業種	医療・介護スタッフ向けのコミュニケーションツールの企画・製造・販売・保守	
主要な製品	医療・介護向けナースコール、介護ロボット（見守りカメラ）、 電話帳アプリケーション	
希望する施設等の 種類や職種等 希望施設に☑を入 れてください 複数選択可	☒ 介護老人福祉施設：特別養護老人ホーム ☒ 介護老人保健施設：老人保健施設、地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護 ☐ 認知症対応型共同生活介護：グループホーム ☒ 特定施設入居者生活介護：有料老人ホーム、軽費老人ホーム、養護老人ホーム、 サービス付き高齢者向け住宅、地域密着型特定施設入所者生活介護 ☐ 居宅介護サービス：訪問介護、看護、デイサービス、リハ、福祉用具貸与サービス 事業者、小規模多機能型居宅介護、看護小規模多機能型居宅介護 等 ☐ ショートステイ ☐ 障害者福祉施設 ☐ 医療機関：介護療養型、介護医療院、病院、リハビリテーションセンター 等 ☐ その他：（ ）	
その他の希望	施設様にて施設内で蓄積されたデータをお持ちでしたら、弊社データサイエンティスト によるデータ解析の伴走支援も本実証と合わせて実施可能。	

2. 機器・システムの概要（可能な限り詳しくご記入ください。）

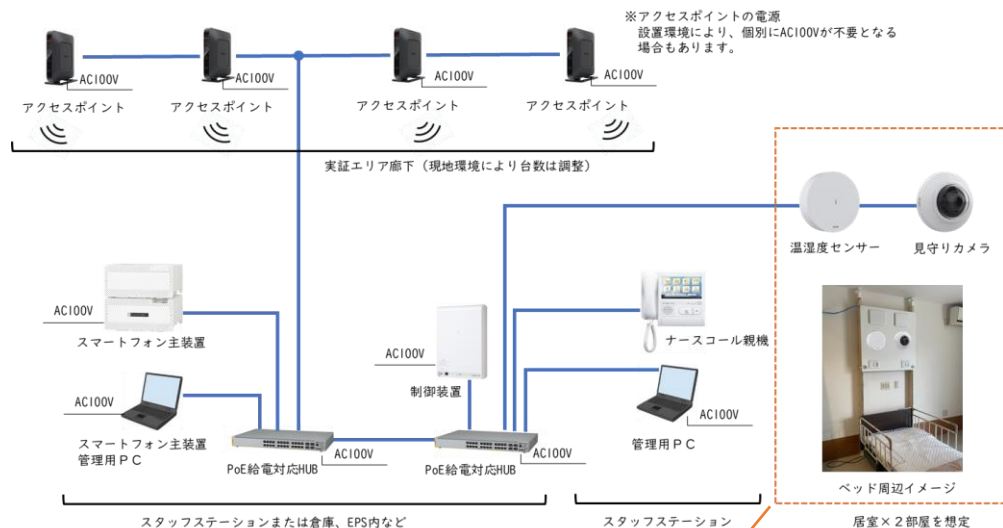
機器等の名称 （仮称）	被介護者向けソリューション・部屋全体見守りシステム
機器等の概要 （写真を添付する こと）	<u>想定する使用者、使用場面</u> [使用者] <被介護者> システム利用に同意を得た方 <介護者> 日勤・夜勤のスタッフ
	<u>機能と使用方法、有用性</u> 見守りカメラと温湿度センサーで部屋全体を見守り。 [見守りカメラ] ・転倒リスクが高い被介護者がベッド上で端座をした際にスタッフが持つスマート フォンへ着信することで転倒前に駆け付け対応ができる ・ベッド外で被介護者が倒れた場合も検出可能

- ・夜勤時に訪室をしなくても部屋内動画を一覧で確認できるため巡視相当の目視確認ができる（訪室回数を減らせる）
- ・ケア中のコール対応もケアを中断するのか、今、コール元へ駆け付けるのかコール元の状況が画像で分かるのでケアの優先順位をつけられる

[温湿度センサー]

- ・温度・湿度の測定ができ、部屋内環境が異常になった場合にナースコールへ知らせることができ熱中症になる前に対応ができる

写真）仮設イメージ



類似する機器等との相違

- ・デバイスが非接触型であること
- ・部屋全体の動作検出が可能（ベッドから離れて転倒しても検出できる）
- ・ベッド位置を自動で検出すること（ベッドを動かした際でも再設定不要）
- ・夜間においても映像確認可能
- ・温湿度センサーとの連携（モニター画面に温湿度の値を組み込み）

当該機器等と介護業務との関連性

- ・動作検出による転倒予防のための駆け付け対応
- ・ケア中のコール対応もコール元の状況が分かり適切に対応できる（心理的負担減）
- ・部屋内モニターによる巡視回数の減少（身体的負担減）
- ・部屋内で転倒してしまった場合に気づかず重症化していた時の早期対応
- ・温湿度センサーによる熱中症対策

現在の開発状況と課題	<u>機器等に関するリスクアセスメント</u>（性能安全と利用安全の確保対策） ※アセスメント結果を添付して下さい。 社内基準に基づく保証試験や各種試験に合格し、発売済。
	<u>社内や社外モニター調査の実績</u> ※実績ありの場合は、その結果を添付して下さい。 本システムでのモニター調査の実績はございません。
	<u>開発に関する当面の課題</u> 市場浸透のため、部屋全体見守り（見守りカメラと温湿度センサー）を要望されるターゲットの抽出（どの機能を持った施設様へご提案差し上げれば良いか）

3. モニター調査の概要

1. 調査のねらい	人員配置基準「1対3」は、テクノロジーの浸透率と共に変化をするのではないと考えており、スタッフの生産性向上のために部屋全体の見守り（ベッドでの端座・ベッド外の転倒や部屋内温湿度設定）がどのように有効なのか検証をしたい。 今までは部屋の状況は訪室しなければ分からないことがカメラやセンサーが24時間定量的に見守ることが可能。その結果として被介護者（ご家族含む）、介護者の安心につながるポイントの把握や今後へ向けた新たなAI検出でカメラの価値を向上させていきたい。
2. 調査概要	1) 調査対象： 被介護者、介護者 2) 調査したい場面、場所： [場面] ・日勤、夜勤ともに転倒につながる行動時の動作検出によるスタッフの変化 ↳ 心理的負担軽減：コール時に状況が分かることの安心（優先順位付け） ↳ 身体的負担軽減：コール対応に追われないことで部屋の行き来が減る ・カメラモニターによる夜勤の巡視代用（2回に1回はカメラモニター対応等） ・スタッフが気づかないところでの異常環境把握（温度・湿度アラート） [場所] ・同意を得た被介護者の部屋内（個室を想定） ・ステーションヘナースコール親機などの設置 ・他、共用部へのHUB設置など 3) 調査期間（日数）： ・1～2か月相当（施設様と要相談） 4) 機器の台数： [部屋] 見守りカメラ、温湿度センサー×2セット（2部屋を想定） [ステーション] 親機×1、制御装置×1等 [共用部] HUB×2 など 補足） 現場復旧が基本のため、現場調査にて、配線ルートや仮設作業を企業側で実施。その後、設置対象先（個室を想定）を打ち合わせし仮設作業の範囲、仕上がりを事前に口頭にてご説明を差し上げ、実証期間を決めた後に機器の仮設実施。実証期間後に機器と配線は撤去予定。

4. モニター調査の実施手法（協力施設等へお願いしたい内容）

※本書のP9～10を参考にモニター調査の具体的な実施方法を記載してください。

（注）5つの項目全てを行う必要はありません。（実施しない項目は「特になし」としてください。）

※モニター調査検討委員会等の審議により採択された場合には、当協会及び専門家によるアドバイスをを行います。

1. 利用対象者の適用範囲に関すること	【調査手法】 ☐観察法 ☐インタビュー法 ☐質問紙法 ☐その他： 【想定する調査方法】 特になし
2. 利用環境の条件に関すること	【調査手法】 ☐観察法 ☐インタビュー法 ☐質問紙法 ☐その他： 【想定する調査方法】 特になし
3. 機器・システムの利用効果に関すること	【調査手法】 ☐観察法 ☒インタビュー法 ☒質問紙法 ☐その他： 【取得指標】 i 被介護者（取得必須指標、以下のうち1つ以上） ☐要介護度 ☐ADL ☐IADL ☐LSA ☐日常生活時間 ☐QOL ☐その他（ ） ii 介護者（取得必須指標、以下のうち1つ以上） ☐腰痛等の有無 ☒介護負担指標 ☐ストレス指標 ☐生体情報 ☒その他（総合の満足度と関連項目との相関分析など） iii 介護サービス提供全体の流れ ☒プロセス全体の時間 ☐人員構成 ☐職務タイムスタディ法 ☐その他（ ） 【想定する調査方法】 介護者へのアンケートを実施。業務の変化を中心に15問程度にお答えいただく想定。システムの満足度高低で層別をして、全体的に満足度が高いのか、部分的なのかをアンケートデータより把握をする。その結果をもとにインタビューにて深掘り。
4. 機器等の使い勝手に関すること	【調査手法】 ☐観察法 ☐インタビュー法 ☐質問紙法 ☐その他： 【想定する調査方法】 特になし
5. 介護現場での利用の継続性に関すること	【調査手法】 ☐観察法 ☐インタビュー法 ☐質問紙法 ☐その他： 【想定する調査方法】 特になし
6. その他	・スマートフォン連携をするためネットワーク接続設定が必要となります。ネットワーク設計業者様と事前に打ち合わせをさせてください。 ・システムのログを活用したデータ解析も並行して実施。 例）万歩計の歩数とスマートフォンモニター回数とで相関があるかどうか等

（注）必要に応じて記載欄を増やしてください。

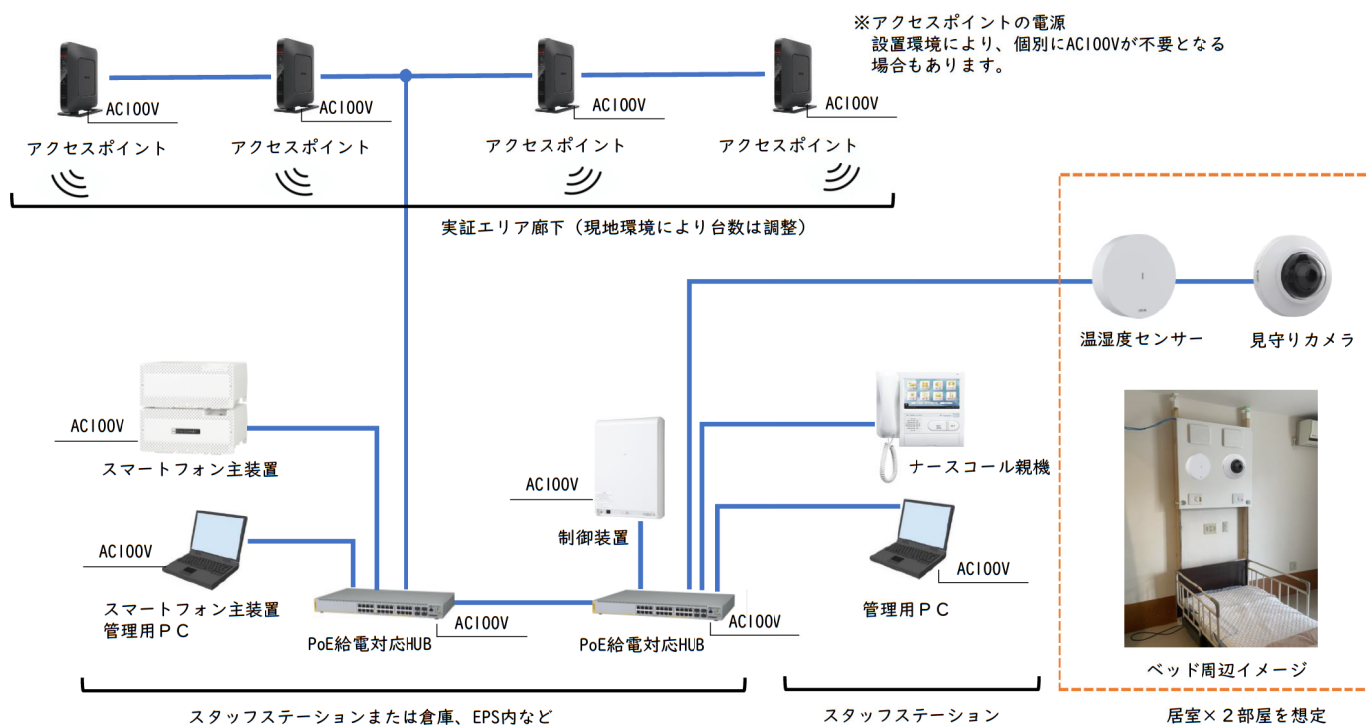
介護テクノロジー等モニター調査事業 計画概要書 「2. 機器・システムの概要」別添資料

アイホン株式会社



介護ロボット等モニター調査事業 計画概要書「2. 機器・システムの概要」別添資料

システム構成図例



試用機器一覧（1／2）

<ナースコール、介護ロボット（見守りカメラ、温湿度センサー）>

No	試用機器名	想定台数	試用機器写真	設置場所の例	備考
1	ナースコール親機	1台		スタッフステーション 卓上設置型（カウンターの上等を想定）	設置の様子 
2	制御装置	1台		スタッフステーション （または倉庫・EPS内）	要 A C 100V電源
3	PoE給電対応HUB	2台 ※現地環境により変更あり		スタッフステーション （または倉庫・EPS内）	要 A C 100V電源
4	見守りカメラ	2台想定		見守り対象者の部屋内（ベッド付近）	設置の様子 
5	温湿度センサー	2台想定		見守り対象者の部屋内（ベッド付近）	専用パネルを作成し、仮壁を作って設置した。

2

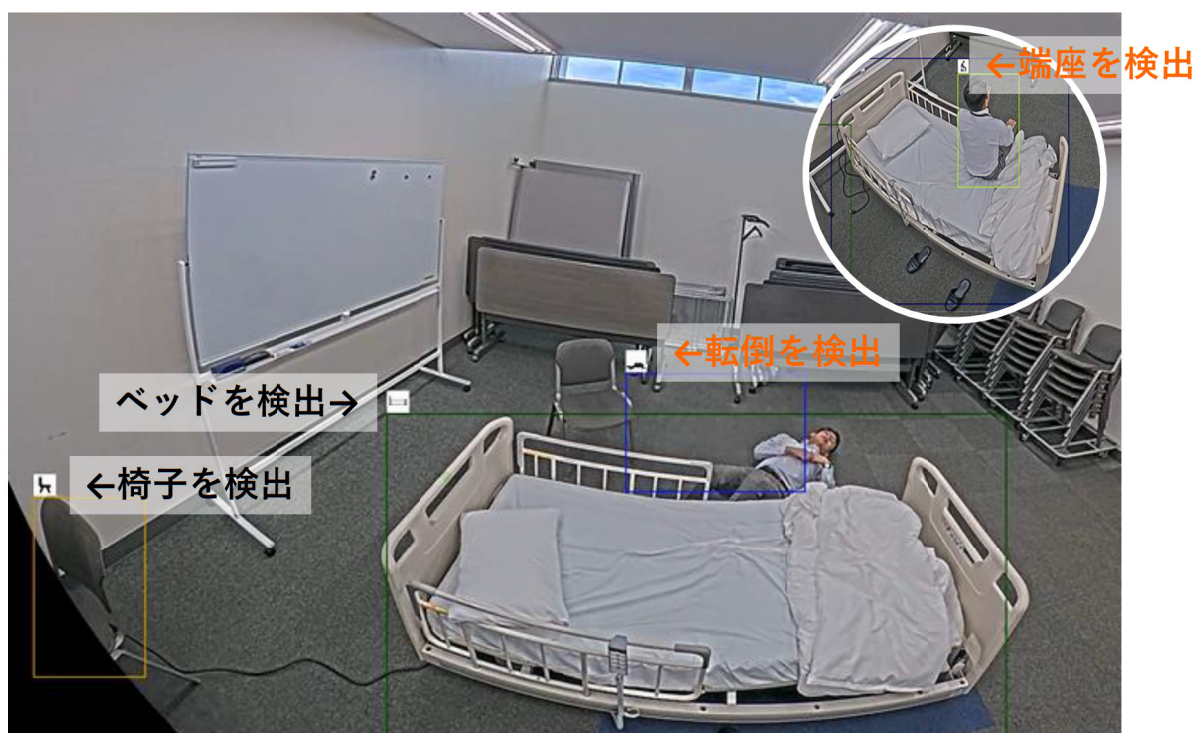
試用機器一覧（2／2）

<スマートフォン設備／管理用機器>

No	試用機器名	想定台数	試用機器写真	設置場所の例	備考
6	スマートフォン主装置	1台		スタッフステーション （または倉庫・EPS内）	要 A C 100V電源
7	スマートフォン端末	2台		スタッフが携帯 （充電時はスタッフステーションを想定）	訪室せずにベッド 付近の様子を確認 することができる 
8	アクセスポイント	3台 ※現地調査 後に台数決 定		実証エリア廊下・共用スペース	要 A C 100V電源 卓上設置または壁面に設置
9	管理用 P C	2台		ナースコール親機付近に 1 台 スマートフォン主装置付近に 1 台	要 A C 100V電源 ナースコール、スマートフォン主装置管理用 （スタッフの操作は不要）

3

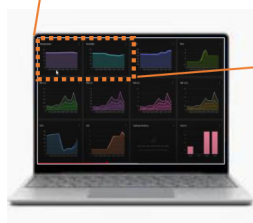
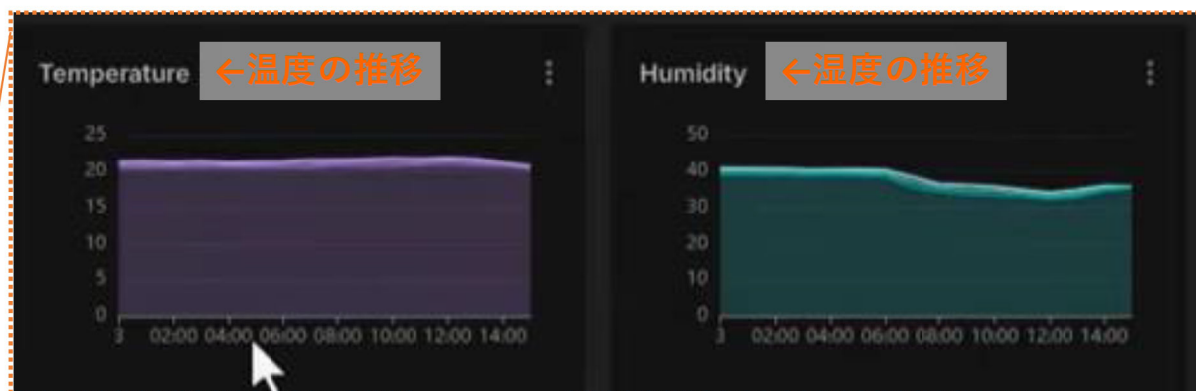
試用機器の活用例 1 / 2 (見守りカメラ)



ベッドの端座や部屋内の転倒を検出可能（ベッドの縦・横も自動検出）

4

試用機器の活用例 2 / 2 (温湿度センサー)



管理用P C

部屋内の温湿度推移や温湿度が異常時にアラートでお知らせ（異常環境の把握）

5

アイホン株式会社

[本社]	愛知県名古屋市	[創立]	1948年6月1日
[資本金]	53億8,884万円	[従業員]	1,999名（連結）
[拠点]	国内：9支店、14営業所、販社：5か国		

※2024年3月末時点



世界中の人々にコミュニケーションとセキュリティの技術とサービスを通して安心・安全・快適を提供し続けます。